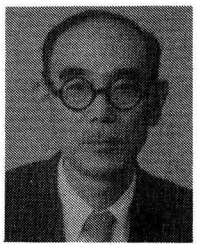
田淵寿郎（たぶち　としろう）――――――――――――――――――――――竹重貞蔵

明治23年（1890年）広島県大竹市に生れる。第五高等学校（熊本）を得て，大正4年7月東京帝国大学工学部土木科卒業。山形県，京都府技手を経て，大正8年内務技師となる。秋田，大阪土木出張所を経て，昭和11年仙台土木出張所長となる。13年には中支派遣軍司令部付となり，約1年間上海に駐在した。14年名古屋土木出張所長となり，17年退官。翌18年から華北政務委員会建設総署及び工務総署の技監として，再度中国大陸の国土建設の任務についた。終戦後，20年10月名古屋市技監兼施設局長となり，復興局長を経て，23年助役となる。一貫して戦災復興事業と技術部門を総括した。33年4月辞職。49年（1974）7月逝去。84才。名古屋市葬。数々の褒賞や叙勲を受けたが，名古屋市名誉市民第1号の礼遇を受く。

戦災により壊滅状態となった名古屋市の復興計画に当たり，その勝れた先見性により雄大な復興構想を描き，近代都市名古屋市の繁栄の基礎を築いた。その復興都市計画は，非常に高く評価されている。

建物疎開跡地の2本の百米道路を中心として，当時としては思い切った広幅員の街路を縦横に配置し，日本一の道路網と評されている。市内に散在していた多数の墓地を一箇所に集めるという構想は寺院側の猛反対により一時は挫折するかに見えたが，彼は熱意により千種区の平和公園という墓地公園が実現した。この事は都心部の復興土地区画整理事業を順調に進展させる引き金となったという事ができる。



戦災により焼失した名古屋城の再建も成し遂げた。戦争による多数の犠牲者の霊を慰め，永久平和を祈念するため平和堂を平和公園の高台に建設することに異常な熱意を傾注し退職金の大半を寄付して漸く完成を見た。中国府より贈られた千手観音がここに安置されている。

晩年には脚の病から歩行が困難となったにも拘わらず，名古屋市助役を退職後も各種審議会や建設コンサルタント業等に於いて献身的な努力をし，その優れた先見性と指導力とにより中部圏の発展に貢献し，これを推進した。また木曽川協議会会長として中部圏の利水事業にも大いに貢献した。彼は明治人としての気骨と信念とを持していたが，清算に甘んじ，人には温顔でし，周囲の人達や後輩から深い親愛と厚い信頼とを受けていた。